

第3回審議会 グループワークの論点

■グループ①、② 4 暮らしを支える産業と、賑わいあふれる持続可能なまち〔政策分野4:商工業／観光／農業／林業／脱炭素〕

商工業	・人口減少・人手不足・事業承継に対応し、地域産業の「稼ぐ力（地域経済の活性化）」をどう高めるか、人が減っても、福知山市の企業が今より稼げるようになるためには何が必要かについて
観光	・北近畿の有名観光地を訪れる多くの観光客に福知山に立ち寄っていただく（滞在、観光消費額増）ための取り組みについて
農業	・担い手不足・高齢化のなか、農業を守るため新たな担い手の確保・育成をどう進めるかについて
林業	・山に関心を持ってもらうために「森は大切」というイメージは伝わりやすいと思うが、日々の忙しさや、生活圏からの距離感があり「自分事」としてとらわれにくい。どのようにアプローチをしていけばよいのか。
脱炭素	・荒廃農地の土地活用のあり方について 太陽光パネルを農地に設置（ソーラーシェアリング）し、再エネを地産するにあたり、農地を再生するための担い手の確保と、太陽光パネルを設置することを農地の所有者や地域が肯定的に捉えて取り組んでもらうための具体的な方策について

■グループ③、④ 5 人とまちをつなぐ 暮らしの基盤が整うまち〔政策分野5:道路／河川／上下水道／公共交通／居住環境基盤〕

道路	・道路の維持管理の今後の対応について これまで地域のボランティアや自主的な活動によって支えられてきた道路際や道路法面等の草刈りについて、今後は高齢化や人口減少により、これまで通りの維持管理が続けられなくなる地域が増えることが懸念されるが、地域での自主管理が困難な地区に対し、今後どのようにサポート（助成金など）していくのか。また、行政による作業の代行（業者委託）や、新たな担い手の確保についてご意見をいただきたい。
河川	・近年の気候変動に起因する降雨特性の変化（局所化・集中化・激甚化）に対し、ハード面での防災・減災対策の実施は、莫大な財政負担と長期の整備期間を要するという構造的な制約があり、施設整備のみで被害を防ぎ切ることが困難かつ限界が生じている。このような状況のなか、どこまでの対策をハードとして実施していくべきか。
上下水道	・ヒト（担い手不足）の課題に対し、上下水道事業の官民連携を更に進めることとしているが、利用者側の立場で官民連携をどのように捉えておられるか。近隣市町との広域連携も含め、懸念点などを議論いただきたい。

公共交通	・コスト高や人手不足が深刻化する中、公共交通の「低廉性」と「持続可能性」を両立させるためにはどうすればよいのか？ 安価な移動手段としての公共交通を維持していくためには、「利用拡大」と「運行の効率化」が必要です。利用拡大に向けた真に必要な「利便性」とはどうあるべきか（時間、快適性、価格）、それらを維持していくコストの「効率化」はどのようなものであるべきと思いますか。
居住環境基盤	・都市公園は身近な憩いの場から広域的なレクリエーション、防災拠点に至るまで多面的な役割があり、市民にとって身近な空間となっている。その公園を大切に、きれいに使おうという意識を次世代につなぎ、行政任せにしない持続可能な維持管理の仕組みや、地域コミュニティとの連携をどのように作っていくのかご意見をいただきたい。